

にしんじょう
西武門節
(三下げ)

1. 行ちゆんどーや加那志 待ちみそーれ里前

にしんじょう うえま うとつむ
西武門ぬ間や 御供さびら ヨーテ

うとつむ
じんとー御供さびら

かたすでい くんじ かたすでい あさじ
2. 片袖や紺地 片袖や浅地よ

いち むるす くんじ ち
何時が諸染みぬ紺地着ゆがヨーテ

す くい わんう
染みなち呉りよーや 我思むや

す さとつめ ぐらし ぐとつ
3. 染みゆらば里前 小鳥ぬ如によ

あさじ ゆる
浅地どんやりば 許ちたぼりヨーテ

ゆる
じんとー許ちたぼり

め さとつめ くるまぬ
4. またい参ね里前 車乗ていいもりよ

わん にしんじょう うま
我や西武門に御待ちさびらヨーテ

す くい わんう
染みなち呉りよーや 我思むや

もうお城に行かなければなりません。
お待ちください、西武門の間はご一緒して
お見送りいたします。

(互いの立場の差をたとえて)
袖の片方は紺地で、もう片方は浅地
いつになったら両袖を染めた紺地を
着られるのでしょうか。
どうか染めてください、私は願っています。

(思いの深さをたとえて)
染めてくださるならば 小鳥のような濃い黒
に染めてください。浅地のような薄い色には
なさらないで下さい。

また車(人力車)に乗っていらして下さい。
私は西武門の入り口であなたをお待ちして
おります。

<解説> 昭和7年 作詞：川田松夫 歌劇「西武門哀歌」の一節

官僚と辻の遊女の相聞歌です。(辻は公婦制度に基づいた高級遊郭街)
当時、辻の遊女とお客との恋愛は禁止されていました。

西武門は那覇の幹線道路の名称。辻遊郭は西武門通りの西側にありました。

西武門節 (三下げ) 七=七# 歌:合老四上中工五七



合	老	上	四	老	合	四	中	工	五	四	五	四	中
いかすま	ちゆたみた	んすゆい	んうづい	どいらめ	おいやばね	かくささ	あうあ	なんとう	あんう	しじめ		まかく	ちたがる

七	五	四	工	中	七	上	合	老	四	四	合	老
みすら	いうあ	そでいぬ	おいいう	れやぬてい	ええあう	さあく	あさと	とじにり	めよよ		にいあ	しちさん

上	四	老	合	四	中	工	五	四	五	四	中	七	五
んがじ	んあい	じよ	おぬるん	うえすやん	えうあん	まみり	あいに	やぬば			うくゆう	むじち	うい

四	工	中	七	上	合	老	四	四	中	合	五	工
	びゆ	らがり		あよ	おお	おお	てて	じん	と		う	と

中	七	上	合	老	四	五	五
むや	う	さ	あ	び	ら		

1. 行ちゅんどーや加那志 待ちみそーれ里前 西武門ぬ間や 御供さびら ヨーテ じんとー御供さびら
2. 片袖や紺地 片袖や浅地よ 何時が諸染みぬ紺地着ゆがヨーテ 染みなち呉りよーや 我思むや
3. 染みゆらば里前 小鳥ぬ如によ 浅地どんやりば 許ちたばりヨーテ じんとー許ちたばり
4. またい参ね里前 車乗ていいもりよ 我や西武門に御待ちさびらヨーテ 染みなち呉りよーや 我思むや